平成 30 年 1 月 20 日発行（毎月 1 回 20 日発行）第 392 号

2018　第392号

I MONTHLY Mitsuwa

干支暦(つちのえいぬ)

戊戌

『戊』＝植物の成長が絶頂期にあたるという意味

『戌』＝元は「滅」草木が枯れる状態

芽生えた新たな意味や

面直が戌言トる日

目次

■1～3P　『働き方は改革安全はコツコツ』　…庄田
■3～4P　『節目の年に思うこと』　…菊池
■4P　『小山に人を集め育てる』　…人見
■4～5P　『知識を深く経験は厚く』　…齋藤
■5～6P　『今年も拘る基本と保安』　…川島
■6～7P　『事業所改善への挑戦』　…森
■7P　『所信表明の３本柱』　…大野
■7～8P　『余裕ある計画と確認』　…瀧野瀬
■8P　『「クイック　レスポンス」な年に』　…大塚
■8～9P　『復興の総仕上げ年に』　…大宮
■9～10P　『安全は自分達で作る』　…佐藤
■10P　『平成 30 年の抱負』　…戸塚

働き方は改革安全はコツコツ

維新建設㈱　専務取締役　庄田 雅直

○年頭所感

維新建設社員の皆さん、ならびにミツワグループ社員の皆さん、あけましておめでとうございます。維新建設においては年末年始休暇中の緊急要請はなく、天候にも恵まれ社員の皆さんは各々の場所で穏やかな新年を迎えることができたと思います。また、大晦日の昼 14:00 から元日の朝 8:00 にかけて行われた、JR 貨物会社様「横浜羽沢駅構内 SC 分岐全交換工事」に参加した 30 名の社員は、切替え工事の成功に年を越すことも忘れ頑張っていただきました。このことも併せ、新年にあたり、社員の皆さまへの御礼とご協力をいただいておりますご家族さまへの感謝を申し上げます。

さて、維新建設の平成 29 年を振り返ると、平成 29 年 4 月決算(H28.5-H29.4)においては売上高 13.5 億、対前年 2%増となり、売上目標には残念ながら届かなかったものの、前年を上回るまずまずな業績を収めることができました。続いて、安全成績では昨年と変わらず 11 件の事故・トラブルが発生しました。その内訳は、交通事故 5 件、施工不良 3 件、労災事故 2 件、火災事故 1 件でありました。なかでも、年始休暇明けの初日に発生した重機による重大な労災事故は、受傷した方(取引先社員)にとっても、我々にとっても悲痛な 1 年のスタートを切ることとなりました。また、発生した 11 件の事故のうち 8 件が確認不足によるものでした。改めて、事故防止の第一歩は「自己の声出し確認と仲間の声かけ確認」だと学び、維新建設の安全文化にするため、6 月に開催する安全推進大会に外

部からの講師を招いて「正しい指差確認」の訓練を全社員で行いました。いまさら指差確認の訓練なんて…と思われる方もいましたが、確認不足を撲滅するためには、モニターの取り付けや警報装置といった機械設備によるものと、その設備を確認する社員の習慣や気づく安全文化を構築することが私は重要だと考えています。ですから、今年の安全推進大会でも「出直し指差確認」と題して訓練を行います。確認と気づく安全文化が定着して確認不足による事故トラブルの発生が抑えられるまで訓練は継続させる予定です。

〇中期経営計画 2018(2017-2019)

①健全経営により社会より信用・信頼される会社を目指す

2018：売上高 1,400 百万、営業(ABC)利益 200 百万を目指す→2018.4 期

②安全の先取りにより事故を起こさせない環境を構築する

2018：鉄道運転事故、重大な労災・交通事故、起こしてはいけない事故の発生 0 件

2018：交通事故 2 件、施工不良 1 件、労災事故 2 件、その他事故を 0 件以下とする

2018：ハザードマップをスマ―トフォンで社員が活用出来るようにする

2018：待避訓練の実施 100%、保安体制違反 0 件

2018：従業員会議にて所長表彰のプログラムを組み入れ成果報奨の文化を確立する

③会社の成長を高めるために人財力を高める

2018：2 月～4 月に地元採用に向け大規模な求人広告と活動を展開する

宇都宮 32、小山 35、館林 25、古河 18、東北 13　計 123 名を目指す

2018：働き方改革により取引先と協議して昼勤務予定の制度に力を入れる

2018：安全委員会の出席メンバーは必ず他所へ月 1 回のパトロールを実施する

2018：社員数の増、育成、社内・グループ助勤の活用で繁忙期の休暇取得率 80%にする

2018：所長と副所長が個人面談を 4 月～5 月に 100%実施する

④当社を使おうと言わせる高い技術力と品質管理

2018：各所で重機オペレーター、軌工管、軌作責・指揮者を 1 名以上育てる

2018：各所に小集団活動「労務グループ」を設置して新人教育や技術研修会を担当する

⑤夢と希望を持ち次世代を担う組織づくり

2018：小集団活動のグループを刷新して事業所らしさを小集団から構築する。「求人グループ」など将来への課題をプロジェクトに特化した小集団グループも検討する

2018:上記の通り、小集団グループの見直しを実施して新たなグループの活動項目に「改善」を盛り込んだ活動内容を策定する

〇戌年にあたり

新年の恒例行事である「安全祈願賀詞交歓会」が、今年も 1 月 7 日に責任者ら 43 名が集まり、小山市の須賀神社において 2018 年の工事安全を祈願しました。続いて、場所を変え、社長から年頭の挨拶があり、各所長が抱負を述べ、責任者らが今年の目標を発表しました。実は、維新建設の年始め行事として定着するこの賀詞交歓会を始めた年はちょう

ど 12 年前の戊年でした。「会社の経営基盤は安全なり」と、責任者らを先頭に社員一人ひとりがコツコツと 12 年かけて安全を積み上げてきたわけですが、これからは「安全」もさることながら、「少子高齢化、働き方改革、デフレ脱却」といった難問が業界には山積しており、解決の方向性は専ら「AI(人工知能)や機械化」の流れとなっています。また、この変化のスピードは非常に速く、携帯電話はスマートフォンが主流となり手のひらで簡単に最新情報を入手でき、車は自動運転の足音がすぐそこまで聞こえています。我々の仕事や環境の変化も 12 年前と比べ同じことが言えます。ならば、次なる戊年に向け我々の仕事も機械を主流として、技術の継承にスピードを上げて取り組んでいかなければいけません。しかし、安全だけはスピードにこだわらずコツコツと積み上げていくほうがのぞましいと思っています。今年はそんなスタートの 1 年にしていきたいと考えています。

節目の年に思うこと

小山事業所 所長　菊池 純一

毎年のこととなりますが、**グループ会社・各事業所より小山事業所へ助勤に来て頂き誠にありがとうございます。**小山事業所も他の事業所同様に万年人員不足のため、作責以外はほぼ助勤者の現場があります。そのような現場でも事故やケガもなく作業を進めて頂きありがとうございます。おかげさまで小山事業所では「起こしてはいけない事故」「注意を要する事象」など、列車運行やお客様にケガをさせるような事故を発生させることもなく、平成 29 年を無事に終わることが出来ました。しかし、重大事故に繋がるような小さな事故は少なからず発生しております。残念ながら小山事業所の恒例行事になりつつある車両に関わる事故**「H29.6 回送車が駐車していた一般車両と接触」「H29.7 釜石にて回送車がガードレールと接触」「H29.7 踏切遮断棒折損に気づき慌ててバックさせて後続車両に追突**」が、連続して 3 件もありました。どの事故も怪我人はいなく不幸中の幸いでしたが、一昨年に起こした新 4 号線での衝突事故のように、一歩間違えれば死亡事故になります。小山事業所としましては、今年は**交通事故「ゼロ」**を目指し、社員一人ひとりが安全運転に留意してもらいたいと思います。

ところで、私に所長と言う肩書きが付いてから今年で約 6 年となります。所長を務めるにあたり、小山事業所を「**事故ケガの無い事業所**」にすること、「**次の世代に引き継ぐ**」ことを念頭に今日に至っております。事故ケガのない事業所作りは、事故ケガが発生したらそのたびに色々な施策を講じて継続する努力をします。次の世代に引き継ぐことは一長一短で出来ることではなく、比較的長いスパンでやって行かないといけません。作業員だった人は軌作責、軌作責だった人は軌工管、重機誘導員等を経験した人は重機オペをする、

グループリーダーだった人やそれらを経験した人は総括リーダーそして副所長となり、副所長を務めた人は所長へと、次の世代へと引き継いでいき、この先 10 年 20 年と小山事業所を存続させてもらいます。このような中で急がれるのが次世代の所長と重機オペが挙げられます。とくに現在メーンで行っている重機オペは、以前のオペから交替して約 10 年になります。ベテランの重機オペが育つまでを約 10 年とすると、今から次世代のオペを養成していかなければ、いざという時に誰もいない状況になります。そうならないように急務な課題だと考えております。

平成 30 年は最後の平成の時代となります。昭和から平成、そして新しい時代へと移り変わっていきます。小山事業所も古い考えにとらわれずに時代と共に新しい体制にならなければ、20 年後にはもしかしたら事業所として成り立たなくなっているかもしれません。そうならないようにこの 1 年間頑張っていきたいと思います。

小山に人を集め育てる

小山事業所 副所長　人見 博之

▶元日切換工事に小山からも参戦

平成 30 年の個人目標は、ここ数年話が出ている人員の確保と育成に力を入れていくことです。

小山事業所は現在、出張組を抜くと 27 名しかいません。この人数で JR 小山保技セ様の仕事を行っているのですが、当然、人が足りないため、ほぼ毎日助勤者を頼りに作業をしているのが現状です。役職者を頼むこともあるので、ペアリングや打ち合わせをしっかりと行い作業に取り組んでいますが、普段から一緒に作業をしているわけではないので、意思疎通が上手くいかないときもあります。事故に繋がっていくこともあるので多少不安に思いながらもお願いしている状況であります。役職者をどのようにして増やしていくのかは、まず人員確保をするところからだと思います。

現在資格を取れる社員は、ほぼ取得しているため、残すは新人者の育成と入社して 1 年が経過している社員の見極めをして、資格取得に繋げていきたいと考えております。

人員確保としましては、まずは私の立場でできることとして、**月間勤務表の作成**をしっかりと行いつつ、休日なのかどうかを明示し働きやすい環境を作っていくことで離職者を出さないように心がけていきたいと思います。

知識を深く経験は厚く

小山事業所 副所長　齋藤　忍

私事ではありますが、昨年の 10 月から釜石作業所でお世話になっております。こちらでは、小山で経験出来なかった工種(トラフ新設等)があり、刺激的な毎日を過ごしています。その作業のなかには、現場に支障物や架線等が無いこともあります。私は重機 OP と

▶復旧した軌道へトラフを新設

して経験が浅いので、そのほうが丁度良く操作することが出来てとてもいい練習になりました。この経験を生かせるように、今まで幹事となりセッティングしていた重機教育にも、これまで以上に気合が入ります。

私の平成 29 年目標に『事故の先見の目を鍛える』があります。目標達成に向けて幅広く知識を蓄えられるように心掛けました。今年は**昨年得た知識をほりさげることにより、先見の目を自分なりに鍛えていきたい**と思います。そして、無事故を継続する手段として全社員に取り組んでほしいのが、『あるべき姿』について考え実行することです。あるべき姿とは？と各自が考え作業出来れば、事故のリスク低減につながると思います。29 年度工事も残りわずかになり、色々な作業が輻輳して疲れがたまることで、集中力や注意力が散漫し大きい事故・事象等が起きる時期です。気をゆるめることなく、平成 30 年も新しい気持ちで元気よく作業していきましょう。

今年も拘る基本と保安

宇都宮事業所 所長　川島 健路

2 月に入ると、平成 29 年度工事も残すところ 1 ヵ月半となります。各所「まずは年度末まで無事故で！！」と目標を明確にして取り組んでいると思います。振り返ると昨年は重大事故こそ起こさなかったものの、ワンフレクレーン転倒や一般車を巻き込む交通事故など、「基本的な動作」を欠いた結果の事故が目立ちました。以降、基本動作訓練を継続的に開催し、ヒューマンエラー撲滅に重点を置いた取組みを開始しました。

また、今年度ベストモデルの**『絶対的保安体制の確立』**では、安全施工に漏れや不足が無いように日々の作業にあたって参りました。とくに日中作業におけるルールの遵守や、線閉作業時の 2 重安全措置の取扱い・保安要員の必要人員を念入りに検討して取り組んだ結果、作業安全面での現場環境レベルが向上して、「安パトが来るから」とオドオドする場面は無くなったように感じます。しかし、あと一歩！隣接線に対する適正な安全ロープの設置や**基本動作（指差し・声出し）**など、安全をより盤石なものにするためにこれらを全社員同じ気持ちで推し進める必要があります。『災害をゼロにするか・安全をゼロにするか』全ての現場を安全にするには全員が団結・行動し、たった 1 回・たった 1 人の不安全に気付き見過ごさず声に出し、行動できるかにかかっています。過去も現在も未来も最後の砦はヒトです。平成 30 年度も同じ目標で行こうと思っています。もう 1 つ、強い組織

を造りあげるために『すり合わせ』に拘っていこうと思います。責任者クラスを集めた会議を毎週シッカリと進め、ウッカリミスを防いでいきます。これから先、求められる機械施工を柔軟に対応するためには、オペの育成も必要です。『軌道工の面白い会社』であるために新しいことにチャレンジして事業所を盛り上げていきます。いずれにしても社員の協力やヤル気なくして事業所運営は困難です。働きやすい環境の整備もまだまだ課題ですし、前段で述べた通り「一致団結・協力」して良い職場をつくっていきます。

最近の話題としては、昨年末から東北本線で始まった USP マクラギ交換「USP…Under Sleeper Pad」の略の通り、マクラギ下面にウレタン材が取付けられ防振・消音効果のある弾性マクラギになっています。締結装置が改良型のファーストクリップのため、不備を出さないよう早い段階から新型の工具や治具を準備し、施工開始前には締結訓練も開催し本番に備えました。運搬・交換を支障なく行うために重機や 10ｔトロなど設備投資も十分に行っています。今のところ大きな支障もなく作業を行っています。この工事は現在 JR 東日本様も推進している工事であるため、今後計画されているだけで 5 年の工期があります。工事を他社に渡すことなく全て受注し、無事故で完遂するためにも日々のリスク管理行い、安全作業・品質施工を継続して信頼を勝ち取っていこうと思います。

個人的な目標としましては『安全+実績管理』をしっかりしていくことなので、データを管理して常に適正な交渉や提案をしていこうと思います。

事業所改善への挑戦

宇都宮事業所 副所長　森 和大

▶USPマクラギ運搬の訓練

昨年の目標で掲げた元請け会社様の【安全声かけあい運動】を最重要課題として 1 年を送ってきましたが、数件の事故事象を起こした結果となってしまいました。4 月の MC ワンフレームトロのクレーンを転倒させるという重大事故から始まり、7 月には除草時の熱中症発生、8 月には一般車との接触事故、更にはレール加工時の施工不良など…幸い、大事には至らない結果だったものの、大げさかもしれませんが私はどの事故も『死』に直結する重大な事故事象だと思っています。これは日頃から『声かけサポートカード』を発信している私にとって残念でたまりませんし、施工方法や注意点に絞りすぎて単純なミスを見失っていた形となっていました。

この事故からは、当たり前のこと・言わなくても分かることを口酸っぱく根気強くサポートカードに明記してきた結果、8 月の車両事故からは小さな事象もなく年内を無事に完遂することができました。

そして平成 30 年の目標としては…

①…今年も『声かけサポートカード』工事版を継続・発信し、些細な事故事象も撲滅でき

るキーマンとなっていきます。鉄道３大事故・交通事故は絶対に起こしません。

②…月間勤務表をいち早く作成し、社員の休日確保や昼作業の予定を確保する計画で社員にゆとりを持った打ち合わせと休暇を与えていきます。

③…②で掲げたことはやはり社員数が現在のままでは到底かなわないし、休日にとらわれるとその分現場数が減ってしまうので、売上の低下にも繋がります。そのためには社員数を増加するしかありません。小集団の新体制化を行い、社員のレベルアップ・器具の改善と改良・求人活動に対しての本格始動を行い、社員数を増加させていきます。

この３点に絞り、今年はちょっと変わったことに挑戦した１年にしていこうと思います。

所信表明の3本柱

館林事業所　所長　大野 周平

昨年を振り返ると、５月にわたらせ渓谷鉄道で急曲線での検測車脱線事故がありました。テレビでも取り上げられた事故です。すぐさま緊急出動がかかり、庄田専務、戸塚課長も現場に駆けつけ枕木更換・軌道整備をしました。しかし、国交省の監査が入り、全線の線路状態を改善しなくては、列車を走らせてはいけないことになりました。翌日からは、維新建設・高崎建設で重機や軌陸ダンプを導入して線路の整備が始まりました。ミツワグループの力を集結しての整備が終わり、国交省から列車を通過させてもよいと許可が下りたので無事に列車を通過させることが出来ました。

平成 30 年館林事業所所長としての所信表明は①安全管理②売上確保③人材育成です。

【安全管理】平成 30 年起こしてはいけない事故を０件にする

【売上確保】平成 29 年・平成 30 年の売上目標の達成、元請会社との単価交渉

【人材育成】現在の作業指揮者のレベルアップ、重機 OP（グリッパー、四頭タイタンパー）の育成、有資格者の増加（軌陸ダンプ）・緊張器や穿孔切断などの特殊機材を正しく扱える人材を 90%にする

１月、２月、３月と忙しい時期に、各事業所の力をお借りすることがあるかもしれませんが、よろしくお願いします。

余裕ある計画と確認

館林事業所　副所長　瀧野瀬　達也

昨年は年間を通して仕事量が増加し会社に貢献できました。また、全ての工事が無事施工できたことは、館林事業所の社員全員で頑張ってきたからだと思います。この場を借りお礼申し上げます。

その反面、重大な事故はありませんでしたが、人員不足で線閉遅延を起こしそうになったことが 2 件ほどありました。これからはもっと打ち合わせをして人員にも**余裕を持っていきたい**です。

そして、日常の心構えをしっかりとしていきましょう。仕事をしていて**「何か変だ」と感じたら、時間を置かずじっくりもう一度見直す**こと。仲間がいれば感じたことを述べて、意見を聞く。「他の人がチェックしてくれるから、心配ないだろう」と、チームで行う作業なので自分だけで納得してはいけません。不安全な状態の物と不安全な行動をする人が出会うことにより、災害が発生するとされています。

忙しい時期ではありますが「安全」を最優先に、日々当たり前のこと確実に「確認すること」を怠らず全員が築き上げた 1 年を無駄にしないよう今年も乗り切りましょう。

「クイック レスポンス」な年に

古河事業所　副所長　大塚　健治

元旦から「横浜羽沢切り替え工事」に参加させて頂き、無事に仕事初めを務めることが出来ました。昨年は油断が起因する事象が発生しました。私も心当たりが沢山あります。「昼間で視界が良いのに」や「いつも施工している作業だから」など外的要因で変化点に対して十分な対策・見当が御座なりになりがちでした。とくに施工実績・売上が堅調な時ほど陥りやすく、感度が鈍り対応が遅かったと反省しきりです。そこで今年は次のマニフェストを打ち立てます。

①異常時対応・・・天候不順や災害時に即時対応

古河事業所はエリアを持たない事業所です。重機・回送車・人財は出張工事に出払っています。そのなかで陥没や水害・剥落などの依頼が多々ありました。関係各所の力を借りることで施工完遂。最終的には大きな売上に繋がった経緯があります。

②人材確保・育成・・・正しい知識と技術の継承

過去 5 年間において、新人者の育成に結果がついてきておりません。人間は等しく時間が経過し、老いが訪れます。そのなかで諸先輩方から伝えられた「勘所・ツボ」と私が経験し、学んだ事柄を速やかに伝承し「苦い経験」や「取り返しのつかない事象」を回避して現状よりもより良い環境で施工できる事業所でありたいと考えます。

2 つの目標を仲間と共に考え、提案・推奨を大前提に「クイック　レスポンス」して事業所を活性化させていきます。

復興の総仕上げ年に

部長兼常磐作業所　所長　大宮　勇司

今年で平成も 30 年に入り、節目の年となりました。維新建設もプロジェクト工事である常磐線復興工事が 2 月で終了し、山田線復興工事も 9 月には終了予定となっており、長期間の工事が 2 件とも終わろうとしていますが、新年度より東北事業所が立ち上がる予定なので、平成 30 年は維新建設にとっても大きな節目の年になろうとしています。

常磐線復興工事も 3 年目に入り、私が赴任してから丸 2 年になろうとしています。工事も順調に進捗し、昨年 4 月 1 日には浪江～小高間で運転再開、そして竜田～富岡間は当初予定よりも 2 ヵ月早い 10 月 21 日に無事運転再開となりました。残す区間は現在、工事を行っている夜ノ森駅を含む富岡～浪江間だけとなりました。残りの工事を無事故できっちりと仕上げて「さすが維新建設だ」と言われるように努力していきたいと思います。

個人的には、3 月から古河事業所に戻ります。営業線のブランクが 2 年程度ありますので(とくに夜勤作業)まずは少しずつ身体を慣らしていきたいと思います。やらなければならないことが山ほどありますが、古河事業所は決まったエリアが無く仕事量も他事業所に比べて少ないので、当面は「仕事の確保」に力を入れて体制を立て直しながら一歩一歩確実に前進していきたいと思います。

安全は自分達で作る

釜石作業所 工事責任者　佐藤 卓弥

昨年は仕事開始、初日から重大な労災事故を起こしてしまい元請会社の皆様や弊社の皆様にも多大な迷惑をかけました。本当に申し訳ございませんでした。作業中の油断や過ちを起こすことや重機作業のミス（確認不足、ルール無視）がどれほどの重大な事故やケガに繋がるか身をもって知りました。これからの時代は、「作業の効率化」や「コストを抑える」ためにも重機主体の作業になっていくと思いますが、重機を使用するということは大きな事故を起こす可能性が高くなると私は考えます。

事故を起こしてから釜石作業所のメンバーと協力し如何に作業員にケガをさせないか、どうすれば重機事故を起さないかと考え、日々の作業を安全に行ってきました。重機の使用計画書や作業手順書の見直しや全員への周知・徹底など現場内における不安要素の排除

など私達にもできることがたくさんあるとわかりました。

続きまして今後の作業について幾つか紹介いたします。まずは大槌橋梁の橋上軌道敷設(400m)の工事があります。マクラギはすべて自分達で加工をして運搬、レールもすべて手作業で運搬しなくてはならず、さらに上り勾配が 20%もあり条件はあまりよくありません。次に大槌トンネル内の損傷レール交換です。腐食が多々あり急遽交換することになった約 200m の部分的なレールの交換で、トンネル内と勾配区間での作業になります。まだまだいろいろな作業や工程が決まっていますが、またの機会に紹介したいと思います。

今後も他業者や作業等の輻輳が考えられますが『安全は自分達で作る』を目標に掲げて日々の作業を安全に進め、今年こそは釜石作業所メンバー全員で事故やケガをさせない、起こさないを完遂したいと思います。

平成30年の抱負

維新建設㈱　工務課長　戸塚　孝一

平成 30 年の抱負としまして、仕事面では、「使われる人間→使う人間に」なろうと考えています。私が受け持っている仕事は、一人で淡々と行うことが多いため、人に頼らず黙々と仕事をこなしてきました。しかし、このままでは私自身の成長が無いので、私が受け持っている仕事を一から教え、こなしてもらい、それを見直すという形を目指していきたいと思います。

安全面では、維新建設内の交通事故防止に努めていこうと考えています。夜間作業にパトロールへ行く際には、移動時間が長く帰りは眠くなることが多々あります。これは運転する社員全員が経験あると思いますので「眠くなったら、パーキングやコンビニで寝る！」ことをパトロールでは終了点呼で、また従業員会議で資料を活用しながら注意喚起していきます。私も手本となるよう、例え助手席に上司が同乗していても実行をします。これが平成 30 年の私の抱負です。

連絡欄